



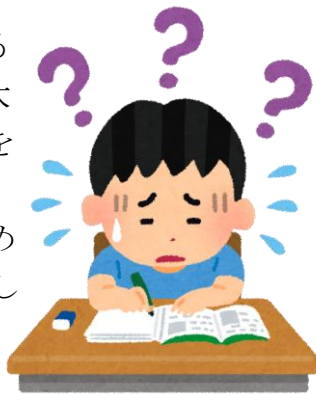
夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2023.8.25 号

園主の鳥居徹也です。夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。※配信停止の方はお手数ですがメールまたはお電話でどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園
電話:047-429-7231

「お勉強がわからない！」その根本を考える

人工知能の時代が来るといっても、お勉強は大事。AI の出した答えを判断するのも、決断するのも自分自身。そのためには必要な知識を暗記しておくこともまた大切になります。



しかしこの「うちの子は学校でお勉強についていけるだろうか？」という心配は無視できない問題です。そこで今回のニュースレターでは、お勉強の、その根っこの力について考え、では**幼児教育は何をすべきか？**についてまとめます。

そもそも「お勉強がわからない」というときの「勉強」とは何か？私はかんたんに「論理」だと言いたいです。論理は目に見えません。目に見えないものがイメージできない。ここがポイントです。

たとえば掛け算などは丸暗記すればOKです。小学校低学年のうちは、先生が書いた黒板のなぞり書きがきちんとできればよかったです。

しかし3～4年になると、文章問題や小数・分数などが出てきます。扱う内容が抽象的になってきます。これが「9才の壁」といわれる問題です。文章問題は目に見えない「論理」を追いかけていかねばなりません。目に見えないものをイメージできないと「わからない」状態に

勉強がわからない
▼
論理が追えない
▼
目に見えない

なります。

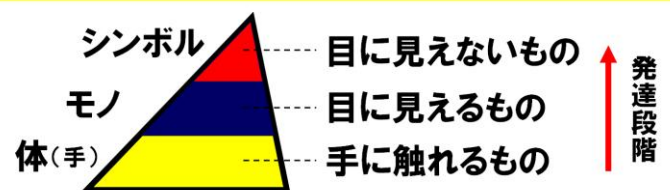
ところで、「場所と時間」の認識について、小さな子どもはまず「場所」について認識しますね。目に見えますからわかりやすいのです。しかし「時間」は目に見えません。だから認識が遅れます。

ですから幼児教育では、

**「目に見えないもの」をどのようにして
イメージできるか？導いていくか？
(抽象的思考力の発達)**

という観点が重要になります。以下は、私が説明会等で出す「認識のピラミッド」です。私たちはこの3段階で抽象的思考力を身につけます。

抽象的思考力の発達段階



赤ちゃんは触らないとモノが認識できません。まず、体(手)で思考する時期があります。触るだけでなく、口の中に入れようとしますね。体の奥で感じたいのではないのでしょうか。

しかし1年後。言葉を獲得すると、いちいち触らなくてもモノに名前をつけて認識できます。モノを通し具体的に思考する時期がきます。

そのプロセスを経て、最終段階のシンボルによる抽象的思考力が可能になります。この発達

には順序があり、ステップを飛ばすことはできません。

- ①手に触れるもの
- ②目に見えるもの
- ③目に見えないもの

という段階を踏んで私たちは「イメージする力」を獲得します。そしてここに、幼児期の遊びの意義があります。



年齢（発達）に合わせて、遊びとおもちゃは変わっていきます。それはあたかも、お勉強にカリキュラムがあって、難易度によってステップ・バイ・ステップで切り替わっていくかのようです。

最初は0歳から始まる「機能遊び」。これで手先の感覚や器用さを身につけていきます。1年たって言葉を獲得すると「象徴遊び」が始まります。これはごっこ遊びが代表的です。

さらに3歳くらいから始まる「構造遊び」。これは積み木などが主なおもちゃです。

そして最後の「ルール遊び」は、4歳くらいから。机上でのカードゲームなどです。ルールという目に見えないものをイメージできないと遊びが成立しません。

そしてこの4つの主な遊びの段階に、先ほどの「認識のピラミッド」がきれいに重なるようになっていきます。これがヨーロッパで確立した遊びの体系です。

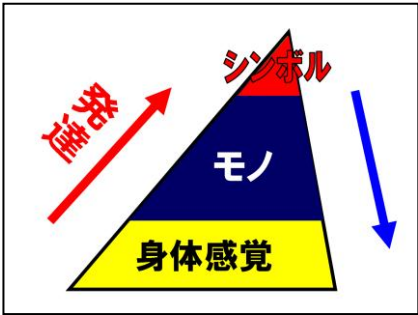


まだ手で（体で）しか認識できないときには「機能遊び」が中心になります。言葉を獲得すると、「象徴遊び」

「構造遊び」など、モノを介した具体的な認識が可能になります。そして最後の、シンボリックな（抽象的な）遊びである「ルール遊び」へと進みます。

その先にあるのが「お勉強」です。幼児期の遊びは、学校で「論理」という目に見えないものを追いかけていく準備にもなるのです。

この「認識のピラミッド」。発達には下から上向きの矢印ですが、「わかった！」というときは、逆の矢印で降り



てきたときにやってきます。

抽象的な文章問題を、具体的なイメージに落とすと分かりやすくなります。この、

抽象から具象への変換

ができないと、お勉強は難しくなります。幼児期に手を使っておもちゃで遊ぶ経験は、将来きっと役立つと私は考えています。（終）

追記: 話題はちょっとそれますが、話の上手な人とは、この認識のピラミッドの上り下りが巧みな人です。話が抽象的すぎると訳が分かりませんが、その時に「たとえば…」階段を1つ降りると理解が進みます。さらにもう1段、身体感覚に訴えるようなリアルな描写をすれば、「腹の底からわかった！」状態になります。